



答 難視聴対策工事の完了予定の平成20年3月までに検討し、民間でCATV会社と協議を進める。

◆市助成金のあり方は

問 旅館組合助成金の来年度廃止は理由がすっきりしない。観光振興上も必要な助成金だと思つた。

答 組合の体制が立て直されれば必要な支援は惜しまない。

◆市民に耐震診断の周知を

問 耐震診断実施率向上への取り組みは。

答 市広報等で対応したい。

◆新築市営住宅の安全性は

問 先日の新聞報道によると昨年新築したばかりの市営住宅床尾団地で火災の恐れがあったやに聞くと、事実はどうであったのか。

答 壁の一部が変色したので早急に改修をした。

◆業者選定に問題は

問 市営住宅床尾団地は設計ミス、業者の選定の問題など通常の補修工事扱いでは済まされない。市長は現場を確認したのか。

答 建設事業部長の責任範囲と判断した。市長は現地を見ていないが、業者は速やかな対応をした。材料選定に一部不適切があったのは事実だ。

**職員不祥事
市長の対応は**

◆組織の体質的問題は

問 相次ぐ不祥事は信用を失墜させた。組織の体質の問題ではないか。

答 基本に忠実な事務処理を怠ったということはある。

◆被害届けの遅れた理由は

問 事件発生後2ヶ月間も警察に被害届を出さなかった理由は。

答 事件をよく理解してからと考えてのことである。

◆市長発言の真偽は

問 戸籍法に一大汚点を残した事件に関連した過料処分に対して「交通違反程度」との市長発言の有無、言質等の文書による質問の回答は流言蜚語とのことだが本当に市長は発言していないか。

答 文書で回答した通りだ。

◆職員不祥事での市長の対応

問 市長の発言に対してその場である方から諫められたと聞くと、その話も流言蜚語と片付けるのか。

答 その通りである。

問 一連の不祥事の中で、旧

榑川村での給与等水増し事件で、懲戒免職の翌日には、一家3人が自殺をすると言つ痛ましい結果となつてしまった。残念であり心から冥福をお祈りしたい。市長はどの様に考えておるか。

答 悔しい、残念無念。

問 使い込み金の金額返済が済んだ翌日に懲戒免職をしたのはお金の回収に全力を注ぎ人命を大切にしない考え方が基本にあるのでは。

答 その様な考え方は無い。本人がお金は全額返済したいとの希望がありそれを尊重した。人命を尊ぶことは最たるものと考ええる。

◆早期退職をどうみるか

問 市職員の早期退職が多いと思つたが、市長のリーダーシップの欠如と人間性に問題があるのではないか。

答 職員の退職はそれぞれの人生の生き方がある。



改修を行った市営住宅床尾団地台所



建替えられた市営住宅床尾団地



(新) 市役所前バス停